

第14期 葛飾区社会教育委員の会議（第6回）会議録

● 開催日時 令和5年12月21日（木） 午後2時00分～4時00分

● 会場 区役所4階 教育委員会室

● 出席者

社会教育委員（7人）

高井 正 萩原 建次郎 緒方 美穂子 齋藤 桂三
澤村 英仁 風澤 明子 山村 智治

報告者（2人）

荒川区教育委員会社会教育主事 中泉 里奈氏
グループオレンジ 早瀬 隆昌氏

事務局職員（4人）

生涯学習課学び支援係長 佐藤 吉裕
生涯学習課学び支援係主査（社会教育主事） 与儀 睦美
生涯学習課学び支援係 矢作 孝寛
（オブザーバー）社会教育主事 濱田 倫朗
出席者 計13人

次第

1 報告事項

(1) 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会

2 議事

(1) 「荒川コミュニティカレッジ」について

ア 荒川区「生涯学習フェスティバル」視察の振り返り

イ 「荒川コミュニティカレッジ」の取組

(2) 今後の会議の進行について

(3) その他

配付資料

○葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会関係資料 [資料1]

○「荒川コミュニティカレッジ」関係資料 [資料2]

○第14期葛飾区社会教育委員の会議スケジュール（案） [資料3]

○（参考）葛飾区子どもの権利条例

○かつしかのきょういく 第152号

○関連事業チラシ（「堀切大凧揚げ大会」，「団体・サークル支援講座」）

—開会—

○事務局 皆様、こんにちは。年の瀬でお忙しい中お集まりくださいます、ありがとうございます。ただ今から、第6回社会教育委員の会議を始めます。

本日は荒川区から、実践報告をしていただくためにお2人においでいただいております。後ほど、よろしく申し上げます。

本日、欠席のご連絡を頂いている委員は、佐藤委員です。また、生涯学習課長は、本日、出張中のために欠席をさせていただきます。

議長のご了解を得まして、本日、濱田社会教育主事が同席しております。生涯学習課区民大学系の社会教育主事の濱田がオブザーバー参加させていただくことをお許しください。

それでは、傍聴者なのですけれども、本日は傍聴申込みの方が3名いらっしゃいます。では、傍聴者はお入りください。

○事務局 お待たせいたしました、どうぞお入りください。

では、始めさせていただきます。

最初に、本日の資料の説明をいたします。一番上に次第がございますでしょうか。資料1は、葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会の資料です。資料2は、これからご報告いただく「『荒川コミュニティカレッジ』の取り組み」の資料です。それから、資料3は今後の会議の進行についてのスケジュール案です。また、参考資料としまして「葛飾区子どもの権利条例」。こちらは、9月25日に、新たに「葛飾区子どもの権利条例」が施行されましたので、参考としてお配りします。それから、「かつしかのきょういく」の最新号でございます。関連事業のチラシとしまして、「堀切大凧揚げ大会」と「団体サークル支援講座」のチラシを添付しました。それから、荒川区のほうから追加資料としまして、「コミカレ」のパンフレットを配付しております。

また、第4回会議の議事録は既にホームページ上に掲載しておりますので、どうぞ御覧ください。

それでは、この後は高井議長に進行をよろしく申し上げます。

1 報告事項

(1) 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会

○議長 皆さん、こんにちは。今日は第6回になるのですが、今お話にもありました、もう12月もあとわずかでおしまいということで、すごく早いなと感じています。今日

は荒川区からお2人来ていただいています。後ほどお話をお伺いしたいと思っています。どういう人がここにいるのか、ちょっと知っていただけるといいかなと思いますので、風澤委員からご所属とお名前を頂けますでしょうか。

○**風澤委員** 金町小学校校長、風澤明子と申します。よろしくお願いいたします。

○**山村委員** 新小岩中学校校長の山村と申します。よろしくお願いいたします。

○**議長** 高井です。現在は早稲田大学の非常勤の講師などをやっております。よろしくお願いいたします。

○**副議長** 駒沢大学の萩原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○**緒方委員** NPO法人レインボーリボンの緒方と申します。よろしくお願いいたします。

○**澤村委員** 文化財保護推進委員や、地域でいろいろ地域史の調査などをやっております澤村と申します。よろしくお願いいたします。

○**齋藤委員** 学校法人長良学園の理事長をしております齋藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○**議長** 職員もお願いします。

○**事務局** 生涯学習課学び支援係長の佐藤と申します。

○**事務局** 社会教育主事で学び支援係の与儀です。

○**事務局** 生涯学習課学び支援係矢作と申します。

○**濱田社会教育主事** 生涯学習課区民大学係の濱田と申します。

○**議長** 専門職採用は非常に少ないのですが、濱田さんは、それを突破されて葛飾区で働いておいでです。

では、これから中身に入っていきたいと思います。まず1つ目は、報告事項になります。これまで緒方委員さんに葛飾区教育振興基本計画の策定検討委員会の委員ということでご出席いただいて、毎回報告を聞いているのですが、報告を聞きながらそういった状況でいいのかと、私たちも残念に思うこともありました。この教育振興基本計画策定は最後の段階に来ているところですので、最新の状況などをご報告いただければと思います。

○**緒方委員** 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会の最終回の第8回会議が、令和5年11月10日に行われました。そして、最終案がこの検討委員会から教育長のほうに報告されまして、これから区議会などを経て1月に決定される予定でございます。その内容は葛飾区ホームページに掲載されているということですので、詳しくはご覧ください。

○**事務局** 正式には1月の教育委員会で決定されますが、最終の11月10日の検討委員会の議論の内容については、既にホームページに掲載されております。この資料1は、

小・中学校の児童・生徒からの意見を集計したものです。個別の意見についても既にホームページに掲載されておりますので、ぜひ御覧いただければと思います。

○緒方委員 ありがとうございます。これまで、第7回会議までの経過をここで報告させていただき、非常に不十分ではないかという意見を報告させていただいてきました。第8回の会議資料として出されました振興基本計画の最終案が、第7回会議、そしてパブリック・コメントに付された案から大きな変更がありました。これは東京聖栄大学の教授でいらっしゃる有村委員長が、事務局のほうにかなり入って修正をされたそうです。

私が第7回までかなり批判させていただいたのが、計画全体を貫く理念があまりにも情けないのではないかということでした。といいますのは、第7回まで案の中で、事務局が、これが理念だと示すところが第3章だったのです。その第3章というのは、葛飾区教育大綱と葛飾区教育委員会の教育目標という、教育委員会が過去に決定した文章2つ、そしてSDGsの説明、そして子どもの権利条約の説明という4つの文章を、これが理念だという説明だったのです。その中でも、SDGsと子どもの権利についての文章が非常にお粗末ではないか、ということをおし上げてきました。

今回有村委員長が事務局にかなりお入りになって変えたところによりますと、葛飾区教育大綱と葛飾区教育委員会の教育目標というのは、理念を示していた第3章から変わって、第1章に持っていかれました。第1章というのは、計画策定の趣旨、期間、そして教育大綱と教育目標、計画の位置づけと、これまでの私たちの協議経過を振り返りまして、理念を示すと言っている第3章の中には、SDGsと子どもの権利と、それから今まで第4章にあった、これからの5か年計画の体系はこうであるということを示していた基本方針、葛飾区教育振興基本計画体系というものを第3章に持ってきたということで、一応と言ったら失礼なのですが、第3章はSDGsと子どもの権利というのを前提にして、これからこういう体系で教育振興計画を作りますよという第3章に生まれ変わりました。SDGsと子どもの権利については、解説文といいますか、こういう内容ですよという文章もかなり項目立てて整理された文章になりまして、非常に分かりやすくなりました。そういうことが最終案で大きく変わったところでした。

11月10日の最終回は、記念撮影があると言われて委員の発言は1人2分でお願ひしますということで、ダーツといろいろ発言がありましたが、まず私の発言内容を先に報告させていただきます。

私が発言しましたのは3点。1点目は、社会教育委員の会議でこういう議論がありましたということで、「子どもは権利の主体である」ということで、教育を受けるという受動態ではなくて、これから学ぶ、生きる主体であるということで、「生涯教育」ということを我々は議論すべきであるということです。学校、家庭、地域というふうに縦割

りで教育・学習を考えるべきではなくて、1人の人生の中でトータルに教育・学習というものを考えていくべきで、生涯教育の仕組みを考えていくべきだという意見を申し上げました。

2点目は、いじめ防止についてです。今までどおり、いじめの未然防止、早期対応についての記述はあるけれども、起きてしまった後の、「重大事態発生後の、速やかな、適切な対応」という文言が入らなかったということで、2014年の重大事態発生後の学校と教育委員会の対応に問題があったと、教育委員会は認めているのですか、と。この重大事態発生後の対応について反省があるのだったら、今回の基本計画に記載するのは当然だと思いますけれども、教育委員会は反省しているのですか、ということ聞いたのですが、これは時間がないということで、お答えはありませんでした。

3点目は、教育機会の確保についてです。不登校児童・生徒への支援についての具体的な取組を、既に東京シューレ葛飾中学校と区立双葉中学校夜間学級があるにもかかわらず、なぜ記載しないのか。今後、生涯にわたってあらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができる葛飾区を目指すという方向性が示されていないのではないかと、ということも申し上げました。この3つを私としては発言しました。

ほかの委員さんからの発言も、かなり「生涯教育」という趣旨のご発言が複数ありまして、上平井中学校の校長先生も、やはり家庭、地域、生涯教育へとつなげていく計画が必要ではないかとか、区民の公募委員の方からも、子どもから大人、老人となるまでのトータルプランというイメージが薄い、今回子どもへのアンケート調査をしたのはよかったけれども、40代・50代以降の人たちの意見を取り入れていくべきではないか、という意見も出されました。

あとは、ICT教育の記載はあるのですが、ICTとかAIとかそういった分野は、この先5年間、今の状態にいるとはとても思えないので、柔軟に、そういった新しい状況を取り入れながら計画を運用してほしいといった意見もありました。

その他にもたくさん意見が出たのですが、報告は以上とします。

○議長 ありがとうございます。本当にいろいろな提案をしていただいて、なかなか受け止められなかったということはこの委員の会議中でも共有してきたわけで、本当に大変だったと思います。

今のようなご意見が、もっと早い段階で教育委員会も含め、聞く耳を持っていただいて議論するようになっていけばよかったのかな、というところはありますね。我々も社会教育委員ですので、そういった生涯教育の視点でいろいろな教育をつなげて考える。インテグレイテッドといってつなげていく発想が、学校も含めて、先を見てどんどんつなげていような発想がとても大事と思うので、そういったことが理念に盛り込まれるか

ということを議論していたわけですが。そういった発言をしていただいたこと、ほかの方もそういった受け止めをした方がいたということは大変うれしいことだと思います。

結果的には、委員長さんが頑張って整理をしていただいて、それが報告になったということですので、緒方委員さんのご努力はきっといろいろな方にも響いたことだと思いますので、本当にありがたいなと思います。

また、完成したものが出てくるかと思しますので、そこを踏まえた上で私どもの循環型の生涯学習を作っていくことに関わってくるわけですので、そのときに改めてしっかり読んでいかなければと思います。

委員の皆さんから何かコメントがあれば、お聞きしたいと思います。

○副議長 最後の最後になって大分手が入って、内容がやっと通じ合うものになったということは、結果的によかったなと思います。ただ、やはりほかの自治体も含めて、教育振興基本計画は、やはり学校教育中心になり過ぎているところが多くて、生涯学習・生涯教育という広い視野からもう一度全体を再編するというのは、まだまだこれからの課題かなということでは思いました。でも、今回のご提言はすごくよかったのかなと思いました。ありがとうございました。

○緒方委員 ありがとうございました。

○議長 ぜひ私どもとしても大事に計画を読ませていただいて、もし、社会教育・生涯学習の視点がなければ、それは何とか克服するような検討をして、答申を作っていきたいと思しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

2 議事

(1) 「荒川コミュニティカレッジ」について

ア 荒川区「生涯学習フェスティバル」視察の振り返り

○議長 これからは、議事に入っていきたいと思ひます。今日は「荒川コミュニティカレッジ」について学んでいこうということですが、前回、「荒川区生涯学習フェスティバル」を視察させていただきました。その前には、「コミュニティカレッジ」はどんな取組をしているのかということで、今日おいでいただひています中泉さんが、『生涯学習支援のデザイン』に書いていただひていますが、それをみんなで読み合わせたり、荒川区ホームページに載っている動画なども拝見して、イメージをつかんだ上で視察に行きました。後ほど視察していただひたところでの感想なども頂ければと思ひます。

本日は、学習をしていらっしやる立場の早瀬さんにおいでいただひていますので、学

ぶ立場からのお話をお伺いできればと思います。

では、まずは、生涯学習フェスティバルに参加した方から一言ずつ感想などを自由に出していただいた上で報告を受けていければと思います。

では、澤村委員さんから順番でお願いします。

○澤村委員 楽しく見させていただきました。本当に率直に言ってすばらしかったです。それはフェスティバル自体がすばらしいということと、そこから透けて見える荒川区さんの生涯学習のシステム、いろいろなその種類、それがやはりすごく充実しているなど感じました。私もあまり葛飾区の現状に詳しくはないですが、知っている限りで比較してみますと、このコミカレという1年単位で講座をやる区民大学のシステムというのは、現状、葛飾区にはないと思います。それからシルバー大学でしたか、水彩画とか書道とか音楽とか健康体操などの趣味の活動も区のほうで直接バックアップされているということもありますし、そのほかに単発の講座も幾つかチラシがあった気がします。生涯学習入門講座や、社会教育サポーター制度というようなチラシもありました。様々な人々が参加して非常に大きいメニューの中で生涯学習が動いているなという気がしました。

○風澤委員 荒川区さんのコミュニティカレッジはまさにコミュニティで、また、参加されている方々のグループそのものの厚さというか、その思いの厚さとコミュニケーション力、個ではなくて人と人が集まり、つながり、そして続けていくという印象を受けました。その一方で、「社会教育サポーターを派遣します」というチラシがすごく目につきました。派遣例として、手作りおもちゃやフラワーアレンジ、昔遊びなど子どもたちを対象にするようなものもあって、学んだことをさらに発信していく、またそこで人とつながる場ができるという、学んだだけでは終わらないのはすてきだなと思いました。

また、高齢者対象の講座でも、フルート演奏やテーブルマジックなど、大変興味深い例があり、こういうことで人の輪も広がっていくのだな、そこがまた楽しいところでもあるのではないかと思います。大変勉強になりました。ありがとうございます。

○議長 ありがとうございます。

私もこの2018年頃から関わらせていただき、年間20回ぐらいの学習があるうちの何回かを担当させていただいています。1回1回、講座をやるために事前に打合せをしています。打合せの流れが基本方針と変わってくる場合には、また改めて打合せをするという丁寧な取組をやっていらっしゃるということがあって、職員の方はよく学んでいるし、参加している学習者のことをよく知っているということもお話ししましたが、それはすごい取組だなと思っています。

そういった1つの集大成として、やっていることを発表していく場としてのフェス

ティバルということです。特に今年は生涯学習センターにコミュニティカレッジの事務局が移転して初めてセンターで行うということで、もともとセンターでやってきたサークルの発表とコミカレ関係の団体も合わせて 30 団体ぐらい発表ということで、新たな段階に来たのではと関心を持っていました。とても融合していて、さらなる発展のイメージを持つことができたなと思っています。

例えば 2 校の専門学校が参加しています。理容でしたか？

○中泉氏 専修学校連携講座で連携している、国際共立学園の理容・美容と製菓の専門学校の学生さんたちが参加してくださいました。

○議長 そういった若い人たちがいて、若い人たちがいると、マッサージをしたりシフォンケーキを売ったりという、これまでの枠を超えて取り組んでいらっしゃる。

それと、「コミュニケーションの厚さ」というお話がありましたが、学び合いというのは「人づくり、つながりづくり、まちづくり」と言われていますけど、本当につながりを作ってそれが荒川のまちに広がっているなということをすごく感じたところです。

そのためにはいろいろなご苦労があったかと思いますが、そういったところを改めてお聞きしたいと思います。特に今日は、活動をしている早瀬さんにもおいでいただいていますので、ご自身のターニングポイントがどういうところだったのかというところを含めてお話を聞きたいと思っています。またよろしく願いいたします。

では、緒方さん。

○緒方委員 私も、荒川区の層の分厚さを感じました。まち歩きなど、いろいろな活動が発表されていて、私が一番感動したのは荒川区の湿地を 30 年観察していらっしゃるグループで、荒川区のまちを愛するこういった活動は素晴らしいなと思いました。あとは、「誰 1 人取り残さない社会、まちづくり」というので、LGBTQ やひきこもりの当事者の方が率先して活動していらっしゃるって、これはなかなか葛飾区では実現できていない深い活動だなと思って感動しました。葛飾区も素晴らしい活動をしているのですが、何が違うのかなというか、荒川区に学ぶところが何かと自分なりに感じたのは、やはりファシリテーターです。高井先生をはじめとしたそういった専門家の先生方ですとか、社会教育主事さん、引き続きずっとサポートしていただける体制が荒川区ではかなりできているのかなと思って、今日は楽しみにお話を伺いたいと思います。

○事務局 今日ご欠席の佐藤委員から、感想をメールで頂いていますので、読み上げさせていただきます。

「荒川区の生涯学習フェスティバルを見学して一番印象に残ったのが壁画アートでした。体育館下ピロティの壁に鳥や木や草花を描いたものでした。小さな子どもから高齢者までの幅広い世代で共同作業をして、壁画を制作したそうです。地域の絆や郷土愛を

育むことにも大変良い企画であっただろうと推察しました。全体の印象としては、廃校になった学校を活用した施設の生涯学習センターでフェスティバルを行っているため、地域の文化財のように感じました。葛飾区でも区民文化祭というイベントがありますが、荒川区の取組はとても良い取組だと思います。出店・参加されている方々の生き生きとした様子が伝わってきました。貴重な体験をありがとうございました。」

○議長 ありがとうございます。事務局の佐藤さん、ご自身の感想をどうぞ。

○事務局 生涯学習で何かを学びたいとか誰かとつながりたいとかというときに、やはりああった施設があるというのは非常に心強いなど。施設というのは建物のハード面だけではなくて、そこに常駐するスタッフの方々がいろいろな団体につながっていて、いろいろな情報を持っていて、それぞれ個別の支援だけではなくてどことどこがつながると面白くなるだろうとか、そういったことが発想できるような良さがあるのだろうなと思いました。

議長も先ほどおっしゃいましたけれども、初めて生涯学習センターで実施するというときに、既存の生涯学習センターを使っている団体とコミュニティカレッジの方々が、自分たちのことだけではなくて周りの団体の様子も見ながらその場の雰囲気を作ったり、交流したりという場面を拝見したので、ややもすると自分たちの活動をアピールすることで精いっぱいになるところが、そうではなくて、このイベント全体を盛り上げるための自分たちの役割みたいなものも担っているような意識を感じました。そこには職員スタッフの皆さんの働きかけもそうでしょうけど、それぞれの団体の皆さんも自分たちだけというのではなくて、いろいろな団体の皆さんのことも考えつつ自分たちのことがあるという意識で活動されているのかな、というのを感じ、そこは荒川区としては財産だと思いますし、地域を良くしていくための活動としては、そういったものをサポートしていくことはすごく大事なのだなと思いました。

○議長 ありがとうございました。

イ 「荒川コミュニティカレッジ」の取組

○議長 それでは、これから議事（１）のイということで、「荒川コミュニティカレッジの取組」について、今日は荒川区地域文化スポーツ部生涯学習課兼荒川区教育委員会教育総務課社会教育主事の中泉さんにおいでいただいております。また、早瀬隆昌さんは、コミュニティカレッジに参加されて、そこで「グループオレンジ」を立ち上げて様々な活動に取り組んでいらっしゃる方です。

では、初めに中泉さんからスライドを使いながらご説明いただき、その後に早瀬さん

にご報告をしていきたいと思えます。中泉さん、よろしくお願ひいたします。

○中泉氏 荒川区から参りました中泉と申します。葛飾区の社会教育委員の皆様には生涯学習フェスティバルにお越ししていただき、ありがとうございます。感想を伺って、私たちが今回初めて行った取組について評価していただいたことで、また私も次につながってきたいなという思いで今日発表に入れることが本当にありがたいです。

葛飾区様の協議のテーマが「区民の誰もが生涯にわたって学び続けることができるしくみづくりについて—” 学びによる循環型社会” の構築—」ということで、「荒川コミュニティカレッジ」の活動を中心として「学びの循環」をテーマに、学習支援の実践を紹介します。また、後半では、現在、生涯学習センターで取り組んでいることを紹介したいと思います。「荒川コミュニティカレッジ」は「コミカレ」の愛称で親しまれておりますので、以降「コミカレ」と言わせていただきます。

初めに、自己紹介をさせていただきます。私は 2009 年、平成 21 年度から社会教育指導員として荒川区で働いております。最初は家庭教育を担当し、2013 年からコミカレを運営する地域学習支援係に異動しまして講座の企画運営に携わってきました。皆様に事前にお読みいただいた『生涯学習支援のデザイン』での学習支援につきましては、社会教育指導員時代に書いたものです。2020 年からは社会教育主事となりまして、コロナ禍において、地域の学びを止めないために、人と地域をつなぐコミカレについてもオンラインを活用して運営できるように、当時の担当職員と横の連携も大切にしなが事業づくりを行ってきました。現在は、廃校を活用した施設の生涯学習センターに勤務し、生涯学習課の事業づくりや学びを活動につなぐ仕組みづくりを行っています。

まず、荒川区について紹介させていただきます。荒川区は下町と近代的なまち並みがあり、昔から住んでいらっしゃる方と新しく転入して来られる方がいる中で生涯学習もあるということを最初に前置きしておきたいと思えます。

荒川区では区民 1 人 1 人が幸せに暮らせるまちづくりを目指すため、平成 16 年から「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメイン（事業領域）を掲げています。

荒川区では、基本構想における将来像を「幸福実感都市あらかわ」と定め、区民の皆様が幸せを実感できるまちづくりを進めています。生涯学習に関しては、区の基本構想にある「6つの都市像」に関わる広い分野を取り扱っているものと捉えております。

次に、荒川区の生涯学習・社会教育について、計画、事業、施設の3つの項目から説明させていただきます。まず「計画」からです。平成 30 年から令和 9 年まで第 3 次生涯学習推進計画の基本理念が「学びによる生涯活躍のまち あらかわ」の実現です。

「学ぶ・つなぐ・活かす・ひろげる」の4つの視点の下、施策の柱を4本立て、柱ごと

に関連する事業を展開しています。

4つの柱のうち「施策の柱3 地域で学び活躍する人材を支援する」の「地域で活躍する人材への支援」の主な取組に、コミカレがあります。地域に関する学習の機会の提供や学習活動支援を行う際、最初の4つの視点「学ぶ・つなぐ・活かす・ひろげる」を大切に事業の企画運営、学習支援を行っています。

学習支援の際に私は生涯学習推進計画 P38 頁 『生涯学習による「生涯活躍のまちづくり」と「幸福実感都市あらかわ」の実現イメージ』の図を念頭に置いて、企画運営しています。まず、学びを通して人や地域、情報などつながることができます。次に、1つ1つがつながることによって、ひとり一人の「学び」や「つながり」をさらに「活かす」ことができます。そして、「活かす」たことを「ひろげる」ことで新たな学びやつながりが生まれます。このように学びの循環を作っていくことにより、ひとり一人の自己実現や学びによる「生涯活躍のまち・あらかわ」の実現につながると考えております。

続いて、具体的に生涯学習課の事業紹介になります。計画に基づき生涯学習課では主に4つの分野で事業を展開しています。

まず、「青年・成人教育」の分野です。こちらにコミカレが入ってきます。例えば「学びを活動につなぐ」という具体例では、コミカレ修了生が現在、「心身障がい者青年教室『さくら教室』」でスタッフとして活動していただいております。また、「二十歳のつどい」の昨年の実行委員さん数名が立ち上げた団体が、実は今年の生涯学習フェスティバルで段ボールを敷いて子どもたちの遊びのコーナーを実施していました。二十歳のつどいの実行委員会のとてつながり、地域で何かしたいことがあるかなと話しかけたところ子どもの居場所の活動がやってみたいな、という声から、じゃあ何人か仲間を集めてやってみようということで、継続して支援をしているところです。

続きまして、「少年事業」の分野です。「あらかわ子コミュニティフェスタ」は、地域で子どもたちの体験活動などを取り組まれている団体さんが、ネットワークを作って実行委員会を立ち上げ、生涯学習センター全館を使ってフェスティバルを行いました。今年コミカレ受講生が運営のボランティアとして参加しました。

コミカレでは、このように地域の団体さんにつながる機会、地域の活動とつながる機会というのを講座の中に組み込んで、学びをきっかけに活動に活かしたり、つなげたりしていくことのイメージが持てるような工夫をしています。ほかに家庭教育や伝統文化の保存と継承、芸術文化の振興などがあるのですが、今回はコミカレ中心ということなので先に進ませていただきます。

続いて、「生涯学習施設の紹介」ということで、生涯学習施設はこちらに書いてある

生涯学習センター、町屋文化センター、清里高原ロッジ・少年自然の家のほか、荒川ふるさと文化館やゆいの森あらかわ、図書館などがあるのですが、現在コミュニカレッジを実施している荒川区立生涯学習センターの取組について紹介したいと思います。廃校を活用した施設なのですが、この建物の中に生涯学習センターのほか教育センター、シルバー大学事務局、荒川ボランティアセンター分室の地域活動サロンふらっと、フラットという組織が入っています。生涯学習センターでは、会議室やグラウンド、体育館の貸し出し、各講座の実施、生涯学習の情報提供などを行っています。

資料の21ページは、生涯学習センターが行っている事業の紹介です。「さまざまな学習テーマで学び・出会う」、「学びを地域活動につなげる・活かす」、「学習や活動の成果を地域にひろげる」、これらを目指して各事業を実施しています。コミカレの部分は、「学びを地域の活動につなげる・活かす」です。

専修学校と連携した講座を実施しているため、区内にある国際理容美容専門学校さんに、フェスティバルにもぜひ学生さんにご参加いただけませんかということでお声をかけをしました。

こういった新たな事業を通して、コミカレだけではなくセンターが行っている事業を通して、また新たな人や地域とのつながりを作っていくということも学習支援で大事にしています。

では、「荒川コミュニカレッジ」について、紹介したいと思います。

初めに、「立ち上げの経緯と目的」です。平成20年から29年まで、第2次生涯学習推進計画で、計画されました。2007年から団塊の世代の退職に伴い、地域社会の担い手としての活動を期待されたという背景の中、何か地域で活動したいと考えている方へ、活動のきっかけづくりや地域活動への継続の支援が求められており、その中で様々な世代が地縁による仲間づくりを進めながら学習する場、地域活動を行うために必要な知識や技術を身につけるといった場の設立を検討するために、平成20年から「(仮称)あらかわ地域大学構想懇談会」を設置して、地域大学の開設に向けて動いております。地域大学構想では、3つの目的を挙げています。(1) 区民の「学ぶ意欲や喜び」を「地域への関心」へつなげる、(2) 地域の課題に対する区民の力を養い、地域づくりの担い手を育成する、(3) 地域力の向上により「幸福実感都市あらかわ」の基盤づくりに寄与する。その後、名称を募集しまして「荒川コミュニカレッジ」という名前に決定しました。平成22年10月に開校して、初年度は2年間のコースで、月2回、1年間24回。1年次は基礎科目で、2年目になると選択制になって、専門科目を履修するというプログラムで実施されていきました。開校当初は、平日の日中、と平日の夜間の開催でした。それが現在は、土曜日の開校と実施方法を変えてきております。

続いて、「対象（ニーズ）」のところでは、対象は、区内在住、在勤、在学で 18 歳以上の方です。20 代から 80 代の方が一緒に学び合ってきました。資料に書いてあるとおり、参加の動機が本当に様々なのです。働き世代をターゲットにした夜のコースでは、働いている方は長期間だと参加までのハードルが高いという課題に対応して平成 28 年から 1 年のコースに変更しました。特に若い世代の参加を増やすことに向けて、平成 29 年度に、地域のイベントなどでまだコミカレに出会っていない方にアンケートを実施しました。そのアンケートを踏まえて、全てのコースを 1 年間にして、平日の日中と土曜日のコースを開校することになりました。地域の声を聞きながら変化してきたのだということを感じております。現在は働き方も多様ですので、働き世代の方も平日日中であっても日程の調整を頂いている方もおられますし、また、退職された後もお仕事を続けられている方もいらっしゃいますので、土曜日コースだったら参加できるという声も聞いております。

続きまして、コミカレの周知についてです。区内の各施設にチラシやポスターの掲示をしています。その他に戸籍住民課に協力を依頼し、転入された方に配布する転入セットにチラシを入れさせてもらったりしています。また、ホームページには皆様に見ていただいたとおり、修了後の姿が見えるような工夫をしています。

「イベントに受講生・修了生と参加」という周知方法ですが、こちら募集の時期にかかわらず区内のイベントに受講生・修了生と一緒に参加しています。イベントでのブース出店では修了生の皆様が生き生きと活動する姿を間近で感じながら、コミカレや地域活動について知っていただく機会となっています。職員の説明だけでは分からない部分も受講生や修了生が実際に体験したことを話していただけるので、参加につながったこともあります。また、募集時期に体験講座を実施して、どんな雰囲気のところなのかがお試しできる機会も作っています。ここでも修了生にお声がけをして、一緒に学習の場を作ってきました。本当に修了生の皆様には実際に体験したことを伝えていただいて、新しいコミカレ入学希望の方にどんな場所かというのを具体的にイメージいただける機会を作ることができました。

次の「ダイレクトメール」では、QRコードつきのハガキを 30 歳・40 歳・50 歳・60 歳になる年の方に各世代 1,000 件ずつ無作為抽出をしてコミカレをお知らせしています。最後に「ロコミ」ですが、本当にありがたいことで、修了生の皆様が地域の中で、こういうのがあるよとお勧めいただいているところです。

では、続いて今年度のコミカレについて紹介したいと思います。配布したパンフレットは今年度の募集の際にお配りしたものです。今年は執務室の移転もあったので、5 月から 3 月開校で、年間 20 回のプログラム、費用は 1 年間 1 万 2,000 円、定員が 30 名で

す。今年は定員を超えての申し込みがありました。現在の受講生内訳は、30代から50代が40%、60代から80代が60%です。次に「学びを活動につなげるプログラム」というのはどんな要素があるのか考えてみました。毎年、コミカレはテーマや内容を変えて実施しております。まずは一人ひとりの学習、その方に応じた学習の支援ということが必要であると考えております。何をしたいか分からないとか、まだ何も興味は持っていないけれど何かしたいという方が、ご自身の興味関心に気づくような機会。それから、まちの中の好きなことでも、自分の取り組みたい好きなことでもどんなことでもいいのですが、好きなことが見つかるような機会にできるような工夫をしています。徐々に他者と学び、違いを体験したり、学んだことをほかの人に伝えたり、ほかの活動を知りながらつながるといったこと、それから最終的には自分たち自身で事業を企画・運営してみようというような大体の年間の流れを作っています。

ここで学習支援として大切にしていることが3つあります。1つ目が、体験を通して学ぶということ。2つ目が、毎回振り返りを行って次につなげていく、ということを経験者の皆様にやっていただけるように声がけをしているということ。最後に、講座なのでクラス全体で一緒に取り組むのですけれども、ニーズの部分、ここに入ったきっかけがそれぞれ違うということ意識して、それぞれの方に合わせた学習支援者の関わりということが大切だと感じております。

どんな講座なのか具体的なイメージを持ちにくいかもしれませんので、もう一步踏み込んで説明したいと思います。学びを活動につなげていくために学習プログラムを作る際、講座の中で人や地域を知ることができるように、講師や内容を考えています。現在は私が全て組んでいるというわけではないので、担当者にこういうことの視点が大切なのではないかなという投げかけをしているという点でお話を聞いていただくと助かります。

まず、一緒に学ぶ仲間のことを知る。仲間のことを知りつつ、その仲間が知っている情報を共有してもらうことで新たな知識やまちの情報を得られる。「人と地域を知る」ということです。

次に、地域で活動している方の実践から「地域を知る」ことができます。実際に活動をしている方の話には、地域の魅力や課題がお話に入ってくるので、そこから地域のことを知ることができると考えております。

3番目に、区の職員や関係者から取組を紹介してもらい、講座の中で区取組を知って、つながるといったことも意識しております。例えば防災のお話などは、区取組を防災課の職員にお話しいただいたりしています。

4番目に、地縁の活動とテーマ型の活動の両方を知る。地縁の活動として、町会活動

について地域の方が興味関心を持って関わっていただけるようなきっかけづくりも考えております。また、少し離れた場所に住んでいても同じテーマでつながって活動できるテーマ型の両方を知るということで、それぞれの活動について具体的な姿を思い描いていただけるといいなと思っております。

最後に 20 代から 80 代までの方が一緒に学び、一緒に話し合い、いろいろな視点で地域のことについて知って意見交換をしたり交流したりということで、多世代の視点で地域を知る、ということをお大切にしています。

次に、「地域を知る」という学習の工夫を次でお伝えします。

2つの写真はコロナ禍前の「だがしや学校」という講座では、参加者一人ひとりが自分の好きなこと、興味のあることなどをほかの方に紹介するプログラムをやりました。物を介して、活動の紹介を介して、コミュニケーションをとってお互いのことを知ろうという取組です。

荒川区にはもんじゃ屋さんがコロナ禍前におよそ 60 件ありまして、「もんじゃ学研究会」という地域活動が立ち上がっており、協力を依頼して「もんじゃ体験」の講座を実施しました。昔、だがしやで、もんじゃを食べた記憶と共に、「こういう時間っていいな」と、子ども時代を思い出し、また、今の子どもたちにとっても、こういう機会が大事なのでは、ということをお体験的に学んでいただいたと感じております。

コロナ禍では、オンラインの学習支援の取り組みでは、最初は始めやすいものを、と考えまして、オンラインの体験講座なども行いました。その後、講座もオンラインで行いました。宮城県の尚絅学院大学の松田先生のゼミ生と Z o o m で交流会もしました。対面でなくても交流ができる、そんな可能性の体験ということで、これもコロナ禍の新たな発見だったのではないかと思います。こういうことをして楽しい学習、印象に残る体験、ほかの人とつながって楽しかったな、面白かったな、もっとやってみたいな、もっと知りたいなという時間を講座の中で作っていくということを意識しています。

続きまして、「地域資源を活かす」ということで地域の魅力の発見とか課題を知るということも欠かせない内容だと思っております。講座は、地域をキャンパスと捉えて外に出て学ぶということも大切にしています。あるとき、引っ越しをしてきた方たちから、「実は商店街に行ったことがない」という声を聞きました。まち歩きの講座でグループに分かれてまち歩きの企画したときに、商店街に行かれるグループが多いということで、学習の中で商店街にみんなで行ってみようという企画もしました。商店街の活性化は地域課題の 1 つでもあると考えておまして、こうしてまち歩きの事業をする中で魅力や課題を自分たちで探して、途中でお店の方とお話ししたり、楽しい買い物をしたりして実際にまちのことを知ってもらうという講座も組んでいます。

また、「荒川を学ぶ」という講座では、令和元年、台風 19 号の大雨の被害があった年ですが、隅田川が氾濫しそうになって、「あのときどうなってしまうかと思った」という声を聞きました。ちょうどその頃、川の博物館という埼玉の秩父のほうにある博物館を訪ねるバスハイクを企画していたのですが、19 号のときに皆さんがずいぶんと心配をしていましたので、途中にある荒川治水資料館 a m o a に行つてどうなったら水門が開閉されるのかという話も聞いて学習できるように追加で企画しました。このように、課題を知る・魅力の発見というところも考えて講座を作っています。

続きまして、「学びを活かした地域交流体験」では、生涯学習フェスティバルで地域とのつながりを作りながら学んだことを発表しました。フェスティバル以外にも学びの成果を発表する機会をプログラムの最後に設けています。今日この後お話しいただく早瀬さんたちのグループも、発表に向けてできたグループです。学びの場から様々な分野の活動が生まれていく流れを感じ取っていただけたら幸いです。

「学習・活動の支援」は仕組みが変わってしまったので令和 4 年度までの話になりますが、コミカレの登録団体が載った冊子を発行していました。この冊子を区内の各施設等に置き、何か興味がある活動があったら団体さんに直接、もしくはコミカレ事務局に連絡がもらえるという形をとっておりました。また、研修室の貸出しなども行っていました。コロナ禍は、地域活動の紹介を動画で発信する取組もしました。

次に「学びを活動につなげる学習支援」についてです。私は、学習支援において「『明日をより良く生きるための学習』を仕掛ける」というのと、「情報のハブ（結節点）になる」ということを心がけています。「学びを活動につなげる仕組み」として、現在、生涯学習センターでは、生涯学習相談、学びを活動につなげる講座、学びあい活動支援、学びあい講座、生涯学習フェスティバルなどの事業があります。

最後に、これからの展望として生涯学習センター付近の資源、センター自体を活かした学習内容を展開したいと考えています。さらに進めていきたいのは「生涯学習や地域活動の魅力が伝わる情報発信」です。講座の紹介や募集についてはホームページに掲載されていますが、生涯学習や地域活動そのものの魅力が伝わる情報発信が課題であると考えております。「区民の主体的な学習や活動を支援する学習支援者の育成」としては、職員の研修なども実施しております。各事業の情報交換により、つながりがある学習や支援をしていけるように、今後も職員がチームとなって取り組んでいきたいと考えております。

○議長 中泉さん、ありがとうございました。

ご質問については、早瀬さんのお話の後に併せてということで進めていきたいと思っております。

では、学習者の立場と、また、その学びを生かして活動を進めている立場の早瀬さんからお話しを頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○早瀬氏 ご紹介いただきました早瀬と申します。

私は修了生という立場でお話いたします。「グループオレンジ」という名前は、コミカレで、グループ学習をする際につけたものです。

私の自己紹介なのですが、地域社会とのつながりは、1990年代からで、子どもの少年サッカークラブでした。当時、学校の施設を使って先生たちがその小学校の子どもたちにサッカー教えていたのですね。ところが先生たちが非常に忙しくなってきたことから、お父さんたちに協力してもらえないかという話がありました。それがきっかけで「父母会」設立メンバーとなり、これが地域とのつながりの始めです。それまではむしろ「会社人間」でした。

もう1つの私の地域とのつながりのきっかけは、関西に住んでいた母親に末期がんが見つかり、母と同居の父の世話のため、東京から関西まで月に3、4回通うことになりました。当時、私は、ポストオフの対象年代でした。ポストオフしたら普通は一般職として働くのですが、私は休職を選択し、今後の人生を考えました。これからは、福祉の時代かなと。2025年問題が叫ばれていました。ここはきちんと福祉の勉強しようということで福祉大学に入りました。

私の住んでいるマンションは、当時、築後35年たっており、区分所有者の7割が65歳以上です。孤独死問題というのがいろいろと話題となっていたので、私もそのときに管理組合の役員として、自治会といろいろ相談をして新しいもの（組織）を作りましょうということで、じゃあ老人クラブを作ればいいではないかとなりました。荒川区では、老人クラブを「高年者クラブ」といいます。新しいクラブでは、孤独死対策のために独自の見守りをやっています。それからいろいろなイベントをやりながら、「認知症」や「フレイル」の勉強もバンバンやっています。それから大学と連携して、高齢者の研究をされている先生の要望に応じて、65歳以上の被験者として多くのクラブ員が参加しました。カラオケやグラウンドゴルフ、輪投げなどに加え、様々な啓発活動も行う、そういうクラブを作りました。

私の福祉大学入学の動機は、社会福祉士の資格を取ることでした。この資格を何故取ったかという、資格を取ることで信頼を得ることができると思ったからです。だから、取りあえず資格を取ってしまえと思って取りました。すると、間もなく、自治会から民生委員をやりませんかと依頼がきました。

いろいろな活動をしている中で、高年者クラブのイベントを仕掛けることを考えているときに、コミュニティカレッジとの出会いがありました。

当時、社会課題として、「新しい共生社会」とか「少子高齢化」、特に「超高齢社会におけるコミュニティの崩壊」とかいう話がいっぱいあったので、高年者クラブ活動として、共生の社会というものを意識したものにしたいという、そういうテーマで、いろいろ調べていたら「荒川コミュニティカレッジ」というのがあって、「クリエイティブコース」の募集があることを知りました。

しかし、すぐには飛び込めなかったのです。3月31日の応募締切り日に、コミカレの事務所に行って、中泉さんと私は会ったのですよ。「今からでも（応募して）いいですか。」、と言って、いろいろお話を伺っていて私には刺さるものがありました。何が刺さったのかと、今思い出そうとしたのですが6年前で思い出せないのですが、多分当時のカリキュラムを見れば思い出すのかもしれませんが。

「入学後の驚き」というのが、講師陣は大学の先生方や、それぞれの地域で実践をされている方々で非常に刺激的でした。更に、素晴らしい同級生との出会いがありました。私のように明確なテーマ性は持っていなくても、何らかのつながりを求めたり、荒川区に対しての興味だとか、そういう人たちが集まってきていました。

それから、もう1つは、私にとっては「居場所」となりました。5年間も在籍していたということは、ここに行けば何となく自分の自己肯定感とアイデンティティの確認ができる気がしました。

具体的に言いますと、高井先生のような大学の研究者の方から最新の知識と論理的な思考を学び、つまりエビデンスのあるお話を聞くことができます。これまで、様々な場面で前例を基に決められてしまうことがあったように思います。自分としては、熟考し、理論的な議論を重ねたいという思いがありました。コミカレに来るとそれができる実感がありました。

それから、地域活動実践者の先生からは、実際に物事を立ち上げる際に、世の中の（常識と前例の）抵抗にぶつかりながら、自分自身のテーマ性を持って実践をする、その中でのノウハウ、そういったことを学びました。先ほどの中泉さんのお話に「学びを活動にするプログラム」というのがありましたけれど、まさにその「実践」をシャワーのように浴びたということです。

魅力的な同級生とは、これは多士済々な人の集まり。私は、筑波の研究所のOBという同級生の話を聞いていて面白くて。遺伝子工学の人だったのですが、その人の持っているもの、それから自分のやってきた仕事（研究）に対する誇り、その内容を何とか皆に説明したい、そういうもの（姿勢）を快く感じました。このことが学び合い講座の動機になっているのです。それは何かというと、「これだけ同級生にいっぱいいろいろな人がいるのに、もったいないじゃない」ということから始まったのです。そうしたら

一声かけるとわーっとすぐ集まってしまって、すぐ3つぐらいの講座をやりました。

そういったのができてしまう。それから、あとグループワークを通じた絆と連帯感。やはりこれは快いです。

それからイベントを一緒にやったときの達成感です。こういう機会は、年を取るとなかなかないと思うのです。これができるしまったというのが、こういう世界（コミカレワールド）ということです。

その授業の内容ですけれども、これは私の受け止め方ですが、実践を常に目指した講義の内容でした。すなわち、「座学として教養を高めました、私は何でも知っています」という人間は期待していないのですね。やはり、常にテーマの設定がそうなっているのです。

それから、グループワーク。必ず能動的に関わるようなプログラムになっています。1つのテーマに関して仲間と話し合い、具体的に実践する。そのために、企画書を作らなければいけない。5W2Hを意識して、どうやってテーマを決めていくとか、どうやって動かす（マネジメントする）か、つまりイベントの実施、運営管理の方法。それから、イベントの実践、評価。これはもう会社（プロジェクト）のPDCAと同じことなのですが、そういうことをきちんと講義の中でやっているのです。

もう1つすばらしかったのは、それをサポートする事務局のバックアップ体制です。このバックアップ体制というのは何かというと、「相談」です。学んでいると講義に対していろいろな疑問が出てきますが、それを素直に話し（相談）に行けて、そのときに、先ほどの話で気づいたのですが、（相談に対して回答が）否定から始まらないで、「イエス」から始まっているのです。ただし、結果的に駄目なことがあるのだけれども、「イエス」から始まりますから我々としては納得感が生まれるのです。所謂、「伴走者」としての。ポジティブな考え方が浸透しているのがコミカレだと思います。

それから、コロナ禍で非常に面白かったのは、オンライン授業ですね。講師の大学の授業にオンラインで参加して学生さんたちと一緒にグループワークしたことがありました。若い学生さんたちと直接話をする機会を得たのは、コロナ禍だからこそできたとは思っています。

私の属しているグループオレンジは、第12期の「あらかわ健康・福祉コース」の受講生のグループです。オレンジ色は認知症支援のシンボルカラーなので、取りあえずグループオレンジとし、認知症をテーマに学びを深めたということです。

今は、学びを深めただけではなくて具体的な活動につなげています。3月に修了してまずやったのは、「認知症サポーター養成講座」の開催です。これは、市民向けの啓発活動ですが、大体開催が平日なのです。グループオレンジのメンバーで、フルタイムで

働いている人は学べないので、土日に自分たちでやっ飛ばさよう、ということでやりました。たまたま、私はこの養成講座の講師資格を持っていたので、「じゃあ、（講師を）僕がやっちゃえばいいんじゃない」とみんなでやりました。当時、このグループの中でこの養成講座の講師ができるのは私1人でしたが、今は1人新たに増えて、2名ができるようになりました。

もう1つの活動は、皆さんに来ていただいた生涯学習フェスティバルのブースです。グループはまだ立ち上がったばかりなので、もう少し実績のあるところとやりたいということで、「町屋青空テラス」と共同でやりました。実は、この「町屋青空テラス」というのは私が代表なのです。町屋青空テラスは、介護予防活動団体として荒川区と地域包括支援センターの支援の下で、オレンジカフェ、体操教室や園芸活動をやっています。全部で9か所、（荒川区）町屋近辺のあちこちでやっています。生涯学習フェスティバルの際に、荒川区民の認知症の理解度を測定するためのアンケートをとって、今、集計中ですが、それを基に全国と東京23区のデータ比較をやって、今後の活動企画に役立てるつもりです。

グループオレンジのメンバーはどんな人ということで、代表的な3人を少し紹介します。1人は荒川区に在住して10年未満。まだフルタイムで働いています。コミカレを知ったのは、コミカレからのダイレクトメールです。動機は、地域とのつながりを持ちたいと漠然と思い、荒川はどうなのだろうということで、近所の様子だけでなくもうちょっと知りたいということが動機ですね。Yさんは20年以上住んでいます。この人もフルタイムで働いています。DMでコミカレを知って、そのとき「あらかわ健康・福祉コース」ができたので、そのテーマにひかれたとのこと。Sさんはまだ（荒川区に）来られて間もなく5年未満で、フリーランスです。「あらかわライフ」というポータルサイトを閲覧してコミカレを知る。動機は「荒川に友だちが欲しい」ですが、今、この人が一番アクティブです。先ほど言ったキャラバン・メイトとして、自分も認知症サポーター養成講座の講師をやりたいと手を挙げて、講師資格を取った人です。この三人の共通点は、皆さん定年を意識するお年頃で、これからどういう生き方をしようかという漠然としたテーマがあって、しかも工夫すれば平日も休暇がとれるという環境があります。

最後に2つだけ強調いたします。まず一つ目、5年間のコミカレを振り返って、私は、コミカレを「インキュベーター」だと思っています。つまり、学びが新たな疑問と好奇心を喚起し、学びの連鎖が起こっているところ。そのことによって、私は人生100年の生き方の秘訣を発見しました。それは何かというと、人生というのを、学ぶ時期と働く時期と隠居時期と3つにおおざっぱに分けてしまうのではなく、65歳で隠居後の20年、

30年以上の人生を考えていく必要があります。この期間をぶらぶらするのはもったいないと思います。そんな人はコミカレに入ったらいいと思うのです。そうしたら、学びによって、別の生き方を発見でき高齢になって退職しても、地域で自分の役割と居場所が見つかると思います。

それから、2つ目、コミカレで学ぶ人は多様性が理解できる。そうすると今の時代に必要な情報が入ってきます。また、偏見と差別を持って人と接することがなくなります。いろいろ知っているから、人の立場やその状況を理解することができるので、絶対に偏見とか差別をもたないはずだと思います。その結果として何が起こるかという、共生社会の実現に貢献できる人になります。

まとめは、「自分と自分を取り巻く環境（社会）の理解促進、他者への理解促進」。それから「人々の様々なシーン（場面）で、自分のなすべきことを想像できる」。この「想像」というのは、「イメージ」という意味の想像です。そうすると、「社会における自分の居場所を発見（自己肯定感の醸成）できる」、そして「生きがいを発見」できて「人生を豊かにできる」ということです。コミカレとの出会いが非常に私の人生を幅広く豊かにしたということです。どうもご清聴ありがとうございました。

○議長 ありがとうございました。職員の立場の中泉さんの話を早瀬さんが聞いていろいろなことを考えて、学ぶ立場、活動している立場の早瀬さんの話を聞いて、きっと中泉さんも何か感じられたと思います。お二人でディスカッションしていただくのも大事なことかと思うのですが、時間が関わるのでそれはできないので、委員のほうから最初確認したいとか聞いてみたいという質問を全部頂いてから、最後にお2人にお話を頂くような形で進めていきたいと思っております。

では、どなたからでも結構ですが、感想とかご質問とかご意見をお出しいただきたいと思います。

○副議長 早瀬さん、ありがとうございました。大変中身が濃くて刺激的で、聞いていて面白かった中身でした。

伺いたいのは、サークル化する、団体として自立していくときのプッシュの仕方というかサポートの仕方で、どういうプロセスで独り歩きしていくのか。それは学習者側の視点から見てどうなのかということと、学習支援者のほうから見てどういうサポートをしていくのか。また、自立して活動している間も多分いろいろとまだまだよちよち歩きのときとかあると思うのですよね。そういうときにはどんなフォローをされていてらっしゃるのか、ちょっとその辺りを包括して伺いたいと思いました。

○議長 では、澤村さん、お願いします。

○澤村委員 私は葛飾区で区民大学の講座を企画したり、運営したりという委員を4年

ぐらいやっていたのですね。10人くらいいて公募に応じて委員にしてもらったのですが、そこでどういう講座を作ろうかと。やはり受講者が心豊かになって生きがいをもって、その結果を社会に還元できるようにと、それから単に座学だけではなくて、ゼミをやったりまちに出たりというような理想を掲げていろいろみんなでお話をしたのですけれども、これがなかなか実現できないところもありましたね。

今、お話を聞いてみて、「学ぶ・つなぐ・活かす・ひろげる」とこの流れですよ。これがやはり単発の講座、3回、4回やるシリーズもあるのですが、単発の講座だとその学ぶというところは確かにできるのですけれども、つなぐ・活かす・ひろげるというところがどうも弱くなるような、お話を聞いているとそういう気がしましたね。

というのは、1年間の講座で何がすばらしいか、私の感想で言うと、仲間ができることですよ。同級生ができるのですよ。1回、2回の講座では隣に座って全然お話しもしないで、「はい、さようなら」になってしまうわけで、1年間一緒にいろいろなことを勉強して考えると、同級生ができる。それから、先輩後輩との関わりで同窓生もできるし、そして新しいつながり、またサークルなり何なりができていくわけですよ。それがすごいなと思って。それがやはり単発の講座ではなかなか実現が難しいのかなという気がするのですよ。その中から区への愛着なりが自然と湧いてくるわけですよ。区が愛着なんかを押しつけても絶対長続きするわけないし、そんなのは偽物に決まっているわけなのですけれども、そういう仲間との付き合い。それから、まちを知ることで、荒川区はいいな、葛飾区はいいなと、こういうことをまたやりたいなと思うわけですよ。分かります、その気持ち。私がそういうふうに行ってきましたから。その1年なり2年なりのコミュニティカレッジというよさがそこにあるのではないかなという気がしましたね。

それで、1つ質問なのですけれども、私が区民大学の運営委員というのをやっていて、一番やはり困ったのが人集めなのです。ここにもいろいろな方法が書いてありましたけど、ポスター、チラシ、この辺はいろいろチャレンジしたけれども、結局はそんなに有効な手だてではなかったですね。だから、今、転入時にチラシを配ったり、参加しない人にアンケートを取ったりということなのですけれども、だんだんこの口コミというのが大きくなっていくのではないですか。1年間のコースができると、葛飾区にこの区民大学がここにあるのだよと。キャンパスがあれば更に、葛飾区民大学というのが形になってくるわけですよ。そうすると、イメージができてきて、「じゃあ、私も行ってみようか」ということで、この口コミがいろいろできるのではないですか。そうすると、それが1つの循環かもしれないですね。

最初、私、このテーマを聞いたときに、自分の人生の中で学んで何か活動して、疑問

が出て学んでという、そういう自分の人生の中での循環というのを考えていたのですけれども、今のお話を聞けば仲間をたくさん作って、「あそこいいから今度行ってみなさいよ」という形になって広げていくというのも、やはり1つの社会的循環かなという気がしましたね。

さっきの質問に戻るのでですけど、どうやって人を集めるかと。いろいろ手だてが書いてありますが、どれが一番有効だったと思いますか。それからリタイアする人も何人かはいらっしやるのでしょうかけれども、その辺のことをもうちょっとお聞きしたいなど。働いているのに、生活の余裕がないのにわざわざどうして行くのかなと。心の余裕がないとなかなか行けないと思うし、経済的にも同じかもしれませんが。それを押してでも行ってみようという気にさせるのは、中泉さんの力なのか、感じるころがあったら教えていただきたいなど。随分長くなりまして、すみません。

○議長 非常に大雑把に言いますと、サークル化していく際のいろいろと支援をしてくださっているわけですが、早瀬さんたち学習者、活動者の側からしたらそのサポートをどのように受け止めているのか。また、例えばどういうサポートがあるととても助かるとか、さらにこういったサポートがありがたいというご意見があれば。

また、支援する立場として、フォローしていく立場としての職員の皆さんはどういうことを大事にしながらフォローしていくのか、支援していくのかというところ。

それから、澤村委員さんから出た葛飾も取り組んでいるけれども、学ぶ場はあるけど、さっきの4つの視点の「つなぐ・活かす・ひろげる」まではない、というご指摘だったと思います。せっかく仲間ができる可能性がある中で、では澤村さんたち区民大学運営委員としては何を考えていくことが大切なのか。それから、上からではない、活動していく中で自然と愛着が出てくる、そういった「愛せよ」ではなくて自然と生まれてくるような愛着や仲間という、そういった部分のつなぐところの大事さみたいなどころもご指摘があったと思います。

もう1つ委員としてのご苦勞ということで参加者を募るところ。特に驚いたのは、10歳ごとの節目にDMを送付しているところです。

○議長 そうした発想というのはなかなかないことなので、それは大切かなと思いました。そういった人集めの中での効果的なもの。こういった部分が一番PRに効いているのか、先ほどロコミだというご意見もあったかと思いますが、お伺いしたいところです。

それとリタイアはあるのでしょうか。長い講座ですので、家族が病気になったり本人が病気になったりも含めていろいろありますが、そういったときのフォローもきっとあるのではないかと思いますので、そういったところのお話を聞かせていただければと思います。早瀬さんからお願いしてもいいですか。

○早瀬氏 サポートされる側ということですよ。先ほど申し上げたように、立ち上げたばかりの時に一番必要なのは、場所なのです。それからイベントの広報。場所は生涯学習センターの場所を確保、それからチラシは自分たちで作成したら印刷してくれて、それを配布していく。特に、あのとき我々が困ったのは、実は町屋地区で主に活動しているメンバーなので生涯学習センターがある地域にあまり土地勘がなかったのも、周知協力はありがたかったです。

それともう1つは、相談を「イエス」から入って聞いてもらえる。つまり同じ目線とか伴走者として考えていただけるという安心感。やはり行ったとき「ああ、それはもう全然駄目だよ」とパシンとやられると、もうそれから行けないので、それは絶対ないのですね。だから安心感を持って相談に行ける。そこですね、やはり。一番そういう精神的な面と物理的な面、それが非常にありがたかったですね。

○議長 そういったサークルを立ち上げる段階でのサポートというのは何か。

○早瀬氏 立ち上げ段階は、特にはないです。なぜならば、私たちの学習グループは卒業して、「このまま解散するのがもったいないね、もっと勉強しようよ」というところで終了しました。修了式の後、飲み会でのことです。そういう意味ではやはり「飲ミネーション」は大事だと思いましたね。

○議長 2時間のプログラムの中に実際に企画をして、ブースを作ってやるということもありますし、最後の成果発表会みたいなところで政策提言をするプログラムもありました。皆さんの「これがやりたい」ということが明確になっていくプロセスが、カリキュラムの中に位置付いているのではないかと感じています。

○早瀬氏 それからもう1つ驚いたのは、学習成果発表のときに荒川区の課長さんが聞きに来られたのです。我々が終わった後、課長さんと都立大学の先生が待っていてくれたのですね。もうちょっと話を聞きたいと。あれでみんなめっちゃくちゃ高揚感があり、燃えてしまったのですね。そういう第三者からの評価というのは、なかなか大人になったら少ないのではないのでしょうか。それも大きかったと思います。だから、そういう機会をセッティングされたということで、コミカレの1つの伝統かなと思います。

○議長 プログラムの中に実践を体験して、最後に成果を発表して、いろいろな専門家の方からご意見を頂けるというのは、そうしたプロセスがプログラム化されているわけですね。20回の中に。

○早瀬氏 その方々は課長さんも含めて、今でも交流があります。

○議長 今のお話しも含めて、中泉さんのほうからお話しいただければと思います。

○中泉氏 団体さんが自立していくときのサポートというところでいうと、講座の中で自主的に、主体的にということをご大事にしていますので、ここはあくまでも興味関心

のあるグループに分かれて、この場でそのプロセスを学ぶというところを大事に取り組んでくださいというところで、団体を作らなくてはいけないとかいうことは一切ありません、ということをもまず伝えていきます。活動につなげていくという視点であれば、既にあるたくさんの活動につなぐというのも1つあるでしょうし、新たに作るということだけではないと思いつながりながら。そんな中で、やりたいな、となったときには、もうあらかじめ自立されているのです。なので、必要な箇所、先ほどの場所とか周知とかほかの情報をつなげるとか、それは皆さんが何か思っていることを聞いて、その都度その都度できることを考えていくことかなと思っています。

また、区民大学のほうのお話の人集めのところで、コミカレも最初からずっと満員御礼が続いているわけではなくて、やはり実施の方法を変えてきた背景には、申込人数が減ってしまったということもあったので、そもそも仕組みが参加しにくい仕組みなのではないか、というところから改善を図って、参加の人数アップにつながったというところは1つあるかと思っています。

それから、周知については、私たち職員がほかの講座に出向いて直接区民の方に紹介させていただいたり、地域の既に活動されているところに出向いて紹介させていただいたりとか、そういったことも行ってきました。コミカレの実施を重ねていくうちに、口コミも増えてきたので今はやっていなくて、どこともつながっていない方にどうダイレクトに情報を届けるかというところを考えて周知しています。

リタイアのお話ですけれども、やはり働き世代の方や若い世代が増えたことによって、お仕事の都合とか家庭の都合とかそういったことで途中で来られなくなってしまう方もいるのですけれども、次の回とか落ち着いたときに来られるような関係性を作っていくというところは工夫しています。また、介護や病気をされて途中で来られなくなってしまう方もいますが、そこも焦らず、いつでもここでまた待っていますから、というメッセージを伝えていくことを大切にしています。途中でリタイアした方も何年後かに申し込んでくださったということもあるので、諦めないでここで場を開いているということが大事だと思っています。

最後になりますが、単発の講座でもこの「学ぶ・つなぐ・活かす・ひろげる」を意識して実施している講座があります。途中の説明でちょっと省いてしまったのですけれども、ママ企画講座。先ほどの運営委員さんのような形で、企画メンバーと一緒に講座を企画して、大体1回か2回の講座を実施して学び合い、参加した方から新たな企画メンバーを募って次の講座づくりにつなげていくということも実施しているので、どの事業でもこの学びの循環の視点を大切に学習を支援するという意識をしています。

○議長 ありがとうございます。時間がない中でお話をありがとうございました。こ

の本の中の中泉さんの文章にもありましたけれども、積極的に待つ支援という、「待つ」ということですね。あと、きちんと受け止めてから話をするという、それから早瀬さんもすごく大事にされていたイエスで受け止めてくれるという、そういったことを大事にしていくということがいろいろな活動につながっていくのだと改めて思いました。

大変時間の進行がうまくいかなかったこともありますので、今後、新たな質問とかあった場合、またちょっと整理してメールで出させていただくかもしれませんので、その際はよろしくお願ひしたいと思ひます。

では、これでこの議題は終わるわけですが、拍手でお礼をしたいと思います。ありがとうございました。

(2) 今後の会議の進行について

○議長 では、最後に今後の予定について事務局から説明していただこうと思ひます。

○事務局 資料3を御覧ください。1月はお休みで、2月と3月で杉並のことを学習したいと思っております。会場が2月15日は、ここではなく立石地区センターになります。またご案内を差し上げますのでお間違えにならないようによろしくお願ひします。

(3) その他

○議長 では、皆さんのほうから情報提供など、何かよろしいでしょうか。

それでは、事務局からは情報提供などありますでしょうか。

○事務局 今日チラシを入れさせていただきました「情報発信力を高めよう！」というテーマで団体サークル支援講座を開催します。ただ今、参加者を募集しております。できましたら、社会教育委員の皆様ぜひ参加していただくとありがたいと思ひますので、ぜひご応募をお願ひしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

○議長 「情報発信力」ということで、講師の坂田静香さんというのは「行列ができる講座づくり」の講師や大田区の市民活動をずっとやっている方で、元キャビンアテンダントですね。非常に面白い講座をされ、広報についてすごく力を持っている方ですので、ぜひ出ていただくといいのではないかなと思ひます。

では、よろしいでしょうか。次回は2月ということですので、年末年始、お身体に気をつけて2月に元気でお会ひしたいと思ひます。今日は皆さん、ありがとうございました。

—終了—